

## 第 29 回 行政改革推進会議 議事要旨

### 【開催日時】

平成 29 年 12 月 7 日（木）17:15～17:33

### 【場所】

官邸 4 階大会議室

### 【出席者】

議 長	安倍 晋三	内閣総理大臣
議長代理	麻生 太郎	副総理
副 議 長	梶山 弘志	行政改革担当大臣
	菅 義偉	内閣官房長官
	野田 聖子	総務大臣（代理 奥野 信亮 総務副大臣）
構 成 員	秋池 玲子	ボストンコンサルティンググループシニア・パートナー& マネージング・ディレクター
	大塚 陸毅	東日本旅客鉄道株式会社相談役
	河村 小百合	株式会社日本総合研究所調査部上席主任研究員
	小林 栄三	伊藤忠商事株式会社社長
	田中 弥生	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構特任教授
	土居 丈朗	慶應義塾大学経済学部教授
	畠中 誠二郎	元中央大学教授
	森田 朗	津田塾大学総合政策学部教授
	渡 文明	JXTG ホールディングス株式会社名誉顧問

**【議事次第】**

- 1 開会
- 2 議事  
平成 29 年秋の年次公開検証等の取りまとめ
- 3 議長挨拶
- 4 閉会

**【配布資料】**

- |      |                          |
|------|--------------------------|
| 資料 1 | 平成 29 年秋の年次公開検証の取りまとめ（案） |
| 資料 2 | 行政改革推進会議による指摘（通告）（案）     |
| 資料 3 | 基金の再点検について（案）            |

## 【議事の経過】

- 梶山行政改革担当大臣の司会により、議事が進行した。はじめに、平成 29 年秋の年次公開検証等の取りまとめについて、梶山大臣から報告があった。その後、議論に移った。

(各議員の主な発言)

- ・ 石油・天然ガス事業への出資について、JOGMECは業界にとっても当分野での不可欠なパートナー。案件の性格上、相手国での検討に長い時間がかかり、日本側では待つしかないという状況も散見される。丁寧な見直しをお願いしたい。
- ・ 高等学校による先進教育について、SGH、SSHに認定されている幾つかの高校を訪問する機会があり、認定により非常に鼓舞されて活性化しているのが現状。より活性化させるという方向での見直しをお願いしたい。
- ・ 大学の研究等の担い手の育成について、特に若手研究者のモチベーションを下げるような形で、メッセージの出し方に配慮頂ければ幸い。
- ・ 秋のレビューでは、毎年繰り返し取り上げられている事業があるが、なかなか改善につながらない。事業を執行している枠組みそのものに問題があるケースがある。枠組みの見直しをするといったことがあってもよいのではないか。
- ・ 有効なところに予算をつけるという議論が始まっていることについては評価したい。例えば観光インバウンドは、多くの外国人の旅行者に来ていただいているということもあり、予算が効果的に使われた事例になるのではないか。
- ・ 社会保障の問題は、行政事業レビューに取り上げれば、国民の理解が更に広がる。
- ・ マイナンバーについて、行政の無駄を省く大きなポテンシャルがあるが、行政での理解が不十分であることを感じる。現場の意見も聞いて、有効なマイナンバーの活用ということこれから考えていくことが必要ではないか。
- ・ 今回の秋のレビューも、昨年に続いて大学を会場として行われ、将来世代が国の予算に興味を持つきっかけをつくる意味において、非常に意義があった。
- ・ 予算は、今回のレビューのように、戦略的かつ省庁を超えた視点で振り返り、場合によっては組みかえ、統廃合するということを考えていくのが行革の役割。
- ・ 国・地方の公的分野の各種事業について、業務の効率化、事業の再編統合、あるいは遊休資産の有効活用などの、抜本的改革を進めるべき。行革会議で公的分野の生産性向

上を取り上げてはどうか。

- ・ 老朽化の著しい上下水道の民営化の分野では、やはり事業コストの拡大、あるいは国民負担の拡大が見込まれる。行革会議で上下水道に支出している公共事業の関係費、各種の交付金などを横断的にレビューするとともに、業務の生産性向上を検証しながら、課題解決を提示してはどうか。
- ・ 行政事業レビューでは今まで国の予算、お金の面を軸に論議が進められてきたが、制度活用も視野に入れた取り組みをすべき。例えば「春のレビュー」で問題の対象をあぶり出し、民営化、コンセッション等の導入の可否を検討し、「秋のレビュー」でその結果を審議していくという深掘り的な取り組みをしてはどうか。
- ・ 我が国の行革の場合、費用の投入を小さくすることに専念してきたところがあるが、むしろ効果の大きいものはエンカレッジするという視点も必要。
- ・ 諸外国を見ても、IT技術の行政・社会分野への導入というものは大きな利便をもたらす。マイナンバー制度の活用も含めて、思い切って進めていく必要がある。判子を廃止するとか、紙はできるだけ減らすとか、初歩的なことから取り組んでいくのも一つのあり方。
- ・ こんな悪い事業をやっているのかといった声は年を追うごとに減ってきている。今後国民の新たな関心と呼ぶような行政改革の進め方、事業レビューの進め方があるのではないか。まだ国民には周知されていない良い政策について、行政事業レビューの場で国民に広く知っていただくという進め方もあるのではないか。また来年も引き続き、地方レビューも含めて継続していただきたい。
- ・ 行革にも攻めの行革と守りの行革がある。守りはいわゆる無駄の削減であり、攻めは生産性革命のような、効果を上げるもの。今回の秋のレビューでは14件は守り、2件は攻めの改革だったと思う。もう少し攻めの改革があってもいいように思う。
- ・ EBPMIについて、エビデンスとなるデータをもとにして、科学的な視点から政策を立案し、それを管理することは全く賛成。ただ、そのまま行政に持ち込むと、細部をチェックすることに陥る可能性がある。選択的に、より攻めの改革に資するような使い方をしていく必要がある。

○ 関連して、麻生副総理から、以下のとおり発言があった。

(麻生副総理)

- ・ 今回の秋の年次公開検証の結果の取りまとめについては、有識者の方々からお力添えをいただき、感謝申し上げます。
- ・ 財務省としても、御意見を参考にさせていただき、平成 30 年度予算にしっかりと反映させていきたいと考えている。

○ 最後に、安倍内閣総理大臣より、以下のとおり発言があった。

(安倍内閣総理大臣)

- ・ 委員の皆様におかれては、安倍内閣発足以来、5 度目となる秋のレビューに御協力いただき感謝。
- ・ 国民の皆様にご負担いただく税金が、無駄な歳出や、優先順位が低い施策に使われるといったことがないようにしていかなければならない。加えて不断の改善が必要。国民の皆様公開されるレビューは、そのための重要な機会。
- ・ 本日、梶山大臣から今回のレビューにおける指摘事項について御報告があった。国民の皆様に関心が高い社会保障分野からは、今年は調剤報酬を取り上げ、その効率的な在り方について議論がなされた。データなど、証拠に基づく政策立案、すなわち EBPM を効果的に行えるようにするための検証も、試行的に行っている。
- ・ 麻生副総理からも御発言があったとおり、予算編成に的確に反映するとともに、さらに事業の改善に取り組んでいく所存。
- ・ また、本日皆様から御発言いただいた点についても、しっかりと受け止めて、今後の政策運営に当たると共に、地方でのレビューも今年に引き続き、開催したいと考えている。
- ・ 委員の皆様におかれましては、引き続き御協力をお願いしたい。

(以上)

(文責：行政改革推進本部事務局 速報のため事後修正の可能性あり)